

Stage Up

2004年

9

月号

生涯学習情報誌
ステージ・アップ
通巻 No. 133



「夕暮れの静寂」(多摩川台公園から見る等々力)：佐藤 尚 画

- もくじ**
- 2 生涯学習ア・ラ・カルト
 - 4 特集インタビュー 藤嶋 昭さん
 - 8 イベントパーク

発行・(財)川崎市生涯学習振興事業団
〈ホームページ〉 <http://www.kpal.or.jp>

〒211-0064 川崎市中原区今井南町514-1
TEL 044 (733) 5560(代) / FAX 044 (739) 0085
TEL 044 (733) 5811 (ステージ・アップ直通) E-メール: stage-up@kpal.or.jp

●アカデミー●

豊かで夢のある科学技術を捉えよう!

かわさき市民アカデミー「友の会」野外研修会報告

03ことばと映像コース 林 朝子

猛暑の続く7月21日水曜日、会員・聴講生の自治組織「友の会」主催の野外研修会が、112人の参加のもと行われました。今回は「21世紀をより豊かで夢のある科学技術を捉えよう」をテーマに「東京都水の科学館」「日本科学未来館Mesci」を訪ねました。

まず「東京都水の科学館」を見学。2階の「くらしと水を知る」コーナーではいろんな数字が示されていました。一人が一日に使う水の量は約250ℓとのこと。使用量は風呂が一番多く26%、トイレは24%、炊事22%、洗濯20%、その他の家事8%だそうです。そして「なるほど」と目で確かめることのできるのが30分の「アクアツアー」で、本物の水道基地「有明給水所」の見学コースです。その基地に引く水のもとの流れを体験させてくれるのが3階の「アクアプラネット」です。大画面に激流が映り、座席が流れの強弱によって揺れる仕組みになっていて、舟かいかだに乗っている感じの臨場感で、滝下りのような体験でした。

次に見学したのは「日本科学未来館Mesci」。1階から5階の吹き抜け部分には、宇宙から見た地球の巨大な模型が吊ってあり、美しい色彩が常に変化しています。私たちは館内を自由に見学しました。1階では、ノーベル賞の白川英樹博士の「導電性ポリマーの発見と開発」をもとにして、ボランティアの人がプラスチックに電気を流す仕組みを解説し実験を見せてくれました。3階には、ロボットを中心にマイクロマシンやナノテク、超伝導などのコーナーがありました。身長120cmのロボットのアシモ君が登場し私たちを和ませてくれました。



日本科学未来館ではロボット「アシモ」を見学 川口昌弘さん撮影

「ドームシアターガイア」では、新聞にも紹介されたプラネタリウムを見ることができました。本当にすばらしい体験でした。帰りのバスの中でふと思ったのですが、私の子どものころは、プラネタリウムと同じくらい星が輝いていたのに、現在は技術の力で星空を見せるようになったのかと、少しさびしい気もしました。この「ドームシアターガイア」の入場券を手に入れるために、友の会の企画部委員が大変なご苦勞をしてくださったとのこと。深く感謝いたします。

生涯学習ア

●はぐくむ●

青少年創作センター「秋の創作教室」開催

小・中学生と成人を対象にした「秋の創作教室」を6教室開催します。みなさんの参加をお待ちしています。

<小・中学生の部>

陶芸 10月2日(土)16日(土)30日(土)11月6日(土) 全4回
9時半～11時半 費用 1000円

版画 10月31日(日)11月7日(日)14日(日)28日(日) 全4回
9時半～11時半 費用 1300円

工作 10月31日(日)11月7日(日)14日(日)28日(日) 全4回
13時半～15時半 費用 1000円

はたおり 11月20日(土)21日(日)23日(火) 全3回
(小3以上) 10時～12時 費用 1000円

<一般成人の部>

七宝焼 10月5日(火)12日(火)26日(火)11月2日(火) 全4回
13時半～16時 費用4000円

絵画 10月12日(火)26日(火)11月2日(火)9日(火) 全4回
9時半～12時 費用4500円

申し込み 9月11日(土)当日消印有効で、往復はがきに教室名、住所、氏名、性別、学校名・学年、電話番号を記しお申し込みください。
〒214-0034 多摩区三田2-3303-1
川崎市青少年創作センター

問い合わせ ☎044(911)1510

●さがす●

学習プログラム情報とは?

学習情報室では、川崎市公共施設利用予約システム「ふれあいネット」の「情報の提供」に関して、12種類の情報を日常的に管理・運営しております。

「ふれあいネット」では、そのうち10種類の情報については検索できますが、学習課題や学習内容をどのような方法で企画立案したらよいか等の「学習プログラム情報」については現在、検索できるまでに至っていません。

学習プログラム情報は、学習、人文科学、芸術・文化、家庭生活・趣味などの10項目に分類されています。市民館やスポーツセンターなどで作られ、実践された学習プログラムを参考にすることによって、よりよい学習方法を作ることができます。

是非、グループ学習をされるときに、学習情報室へお問い合わせください。

問い合わせ 学習情報室 ☎044(233)6250

ラ・カルト

「川崎こどもあそび隊」で自然探検

川崎市青少年教育施設連携事業

「川崎こどもあそび隊」では、9月から来年1月にかけて、野外活動や創作体験などを中心としたプログラムを実施します。野外炊事・ネイチャーゲームをはじめとした自然の中での体験やクラフト、そしてハヶ岳での冬キャンプは氷点下の世界を体験、高原スキーなど、わくわくドキドキの冒険を計画しています。友達と一緒に探検してみませんか。

〔日程・会場〕

- 9月25日(土)～26日(日)(1泊2日) 青少年の家
- 10月30日(土)(日帰り) 青少年創作センター
- 11月20日(土)～21日(日)(1泊2日) 黒川青少年野外活動センター
- 1月5日(水)～8日(土)(3泊4日) ハヶ岳少年自然の家



ハヶ岳で氷点下の世界を体感

〔対象〕

市内在住・在学の小学4年生～中学生50人

〔参加費〕

36,000円(食事代・材料費・保険料・スキー費用・ハヶ岳往復バス代などを含む)

〔申込方法〕

9月10日(金)必着で、往復はがきに住所・氏名(ふりがな)・性別・年齢・学校名・学年・電話番号を明記し、下記あてに郵送してください。(申し込み多数の場合は抽選)

〒211-0064 川崎市中原区今井南町514-1

川崎市生涯学習振興事業団 学習推進室

◆ボランティアスタッフ募集中◆

この事業のサポートをしてくれる子どもが好きな青年スタッフを若干名募集しています。詳しくは学習推進室までお問い合わせ下さい。

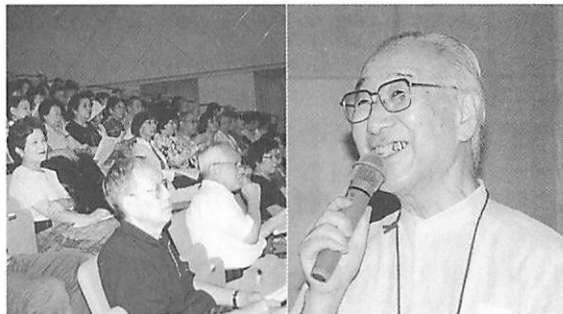
問い合わせ 学習推進室 ☎044(733)5893

アカデミーと色彩

音楽の豊かさを「鑑賞会」で解説する

榎本梯次郎さん

かわさき市民アカデミーで学んだ成果と長年の社会経験を生かして、地域社会に貢献しようと活動している「かわさき市民フロンティア」には、幅広く多様な知的資産を持った人達が多数おります。



その中の一人、榎本梯次郎さん(現在O3音楽コース)は、企業では技術士として活躍された方ですが、クラシック音楽に造詣が深く、その豊かな見識を生かして6年前から毎月1回、国際交流センターを会場に「オペラ鑑賞同好会」を運営しています。この会は、かわさき市民アカデミー音楽コースの成果を拡充した勉強会でもあり、作品解説を交えた映像でのオペラ鑑賞を行っております。会員数230人を超えるまでに広がったこの会の約4割が市外からの参加者です。充実した内容の資料「鑑賞の手引き」を参考に、榎本さんら会員有志から鑑賞ポイントを聞き「音楽の奥深さと壮大さを感じられて楽しい」と評判も上々です。

また、榎本さんはこの会とは別に、1989年から毎月1回多摩市民館でモーツァルト愛好会「モーツァルティアーデ」も主宰、ここでも作品の解説と鑑賞を行っています。1991年、モーツァルト没後二百年を記念したモーツァルト劇場主催「五大オペラ連続公演」の折には事務総括を担当し、その後事務局長としてコンサート、講演会などの企画・運営にもその手腕を発揮されました。

昨年は「かわさきFM放送」(FM K-City 79.1MHz)の音楽番組「旅のモーツァルト」に出演するなど、活動の広がりを見せています。

榎本さんは「オペラは観てのお楽しみ! 生のオペラは決して敷居が高くないので、『鑑賞会』を手掛かりにお楽しみいただければうれしいです。また、万能作曲家モーツァルトの広くて深い奥行きを味わい直しははいかがですか」と語っていました。

(かわさき市民フロンティア 竹内誠一郎 記)

このコーナーは「かわさき市民アカデミー」の修生生による組織で地域貢献を目的とした「かわさき市民フロンティア」が担当します。

特集

インタビュー

財団法人神奈川科学技術アカデミー理事長

藤嶋 昭さん

「光触媒」という言葉を耳にしたことがありますか。光があたっただけで、においが消え水を浄化し、抗菌・殺菌の効果がある。しかも汚れや曇りも防げるという魔法のような技術です。現在、家電製品から病院の手術室まで使われており、世界に誇れる日本発のクリーンな技術として注目を集めています。この光触媒研究の第一人者が藤嶋昭さんです。今年4月には、科学技術の進歩に貢献した国内外の研究者に贈られる「日本国際賞」を、6月には「内閣総理大臣賞」を、7月には「川崎市市民栄誉賞」と立て続けに受賞されました。

このたび小誌では、藤嶋さんにインタビューする機会を得ました。「ありふれたことにも『何故だろう』と考えると、どんどん面白くなってくるんです」と気さくに語る藤嶋さんに、光触媒発見当時の様子や研究の目的、自らの学び、子どもの理科離れについて伺いました。



天壽を全うする事に寄与したい

—藤嶋さんは、光があただけで空気や水を浄化し、抗菌・殺菌・脱臭の効果を持つ先端技術「酸化チタン光触媒」の研究者として世界的に高名ですが、子どものころはどんな環境で過ごされたのですか？

藤嶋 私は昭和17年に東京で生まれましたが、戦争が激しくなったので、父の出身地の愛知県岡崎の奥の足助町に疎開しました。そこは家が14軒しかない山の中の集落で、ほとんどが「藤嶋」姓です。夜は真っ暗になるという自然豊かなところで小学校卒業まで暮らしました。学校には歩いて30分かけて通っていて、帰りはおながすいてその辺の畑にあるサツマイモを生でかじっていましたね。自然に対しては常に感動していて「どうしてこの花はきれいに咲いているんだろう」と関心を持っていました。

—小さい時から探求心が旺盛だったのですね。科学に興味を持ったきっかけは何ですか？

藤嶋 旺盛というほどではないです。私は何もできないおとなしい子どもでしたから…。でも植物には興味がありましたね。中学生の時、担任ではありませんでしたが、生物の先生で川村先生という方がおられました。その先生はかなり年配

の女性の方でしたが、植物学者の牧野富太郎先生に師事なさっていて、植物の生態をいろいろ話してくださいました。今思うと、科学に関心を持つようになったのは、自然豊かな田舎に育って、中学時代にすばらしい先生に出会ったということが影響しているのかなと思います。

—子どものころに憧れていた職業はありますか？

藤嶋 それが全然ないんです。いきあたりばったりできました。自然に今に至ったという感じです。当時はサラリーマンになるのが一般的でしたが、理科系も大事だという雰囲気がありました。私もそう思っていました。研究者になればいいなと漠然とは思っていました。大学に行き、大学院に行って「マスターぐらい出ればいかな」と思って勉強しているうちにどんどん面白くなってドクターコースまで行ってしまいました。

—藤嶋さんは600本以上ものオリジナル論文があると聞きました。

藤嶋 研究者になると論文は業績になりますから、それをいかに増やしていくかということが大事です。研究の成果を残

しておきたい。学生にも「大学にいて論文が書けるということはすばらしいことだ。論文を書いておくと世界中の大きな図書館に行けばその論文はある。自分の履歴書が世界中にある。人類がいる限り論文が残るよ。そういう点で研究者はいい職業だ」と話します。しかし、何のために研究するのかと悩むことがあります。苦勞して論文を書いて残しても、実際に役に立たなければ虚しいですよ。研究は自分の名前を残すためにやっているのではなくて、それがなんらかの形で世の中に役に立てるようにする必要があります。私の研究の第一目的は「天寿を全うすることに寄与したい」ということです。どの人も天寿を全うしたいと思っている、しかも快適に健康に。それに寄与できるかどうかということが研究の一番の目的だと考えています。

私の家には中国の方からいただいた「物華天宝」という掛け軸があります。その言葉の後に「人傑地靈」と続くのですが、意味は「科学の成果は天に用意されている宝である。それを探してきて人類のために使う」ということだそうです。私たち科学者は、まだまだ見つからない宝を探して、人類の役に立つよう研究をすることが大事と常々思っています。そういう意味では、私たちがこれまでやってきた光触媒の研究はこの目的に近いと思っています。だから自分ではいい研究だなと思います。一生懸命やればやるほど快適な空間を作ることができる。そういう方向になってきているというのが私の実感です。

——話は30年以上前にさかのぼりますが、大学院生の時に酸化チタン光触媒を発見されたということですが、その時の様子はいかがでしたか。

藤嶋 当時、他の先生たちも類似のものを使って光触媒の研究をしていましたが、なかなか結果に結びつきませんでした。その時偶然、私は初めて酸化チタンを使って実験をしました。水に入れた酸化チタンの電極に光を当てたら、水中に泡が出てきました。水が分解され酸素が出たのです。「これは新しい反応だ」と感動しました。その時、他の大学で生物を学んでいた妹に話をしたら「それは植物の光合成に近い」と言われました。私は「葉っぱの表面で起こっている現象と近いものを再現できた」と喜びました。でも、もっと嬉しかったことがあります。それは、光触媒反応が起きている水の酸性度(PH)の値が、予想どおり変化した時です。光が当たって酸

素が出ると同時に表面が酸性になるはず、そうすれば自分の考えが正しいことを証明できる。それを確かめるために予測のプロットをしておいて実験を始めました。そうしたら次々と予想通りの変化をしたのです。あの時の感動は今でも鮮やかによみがえります。忘れられませんね。

——その発見に対する周囲の反応はいかがでしたか？

藤嶋 先輩たちからは「お前すごいことやっているな」と反応はよかったのですが、学会で発表したら「それは完全に間違っている」という評価でした。水の電気分解は、普通電圧をかけなければならない。理論的な電圧がある。それが光だけを当てて分解するなんてありえない、と専門の先生方から言われました。ところが1972年に論文を科学誌「ネイチャー」に発表したところ、海外で評価されました。その後に日本の新聞で取り上げられてからは国内での見方がガラリと変わりましたね。



KSPで開催された講演会で参加者の質問に答える藤嶋さん

——研究者として大きな影響を受けた人はいますか？

藤嶋 本多健一先生との出会いですね。研究の大きなテーマとして「こういう方向があるよ」と示していただいたことで今の研究に結びついたと思っています。それと、いい雰囲気を作ってくれた大学院の時の先輩方です。先輩方が一生懸命実験している姿を見て、自分も研究を続けてやってみようかと思うようになりました。私が大学院生だった時の研究室は、先生をあてにしないで自分達だけでやろうという雰囲気がありました。その中で自分も育てられました。ありとあらゆる手段を使って新しいことをしよう、何か面白いものはないかと探し回って研究していました。雰囲気がよいとそれに大きく影響されてしまうんですね。

■光触媒って何だろう？■

光が照射されることにより、それ自身は変化しないが、化学反応を促進する物質のこと。よく知られている例として、植物の光合成がそれにあたる。植物の光合成は葉緑素(クロロフィル)が、太陽光を吸収することにより、はじめてデンプンと酸素が生まれる。この反応の前で葉緑素は全く変化しない。葉緑素が吸収した光エネルギーを利用して反応が進む。酸化チタン光触媒において、植物の光合成反応の葉緑素と同じような働きをするのが酸化チタンで

ある。酸化チタンは耐熱性・耐薬性を持つ白色顔料で、化粧品などに使われている。藤嶋さんの研究は酸化チタンに光を当てた時に起こる現象を、実際の生活に役立つように応用するもの。光を当てただけで汚れが落ち菌もつかず、さらに曇りもつかないというクリーンなもの。基本分野は「抗菌・殺菌」「空気浄化」「水浄化」「防汚・防曇」など。外装タイル、アルミ建材、ガラス、塗料などに製品化されている。



(昨年十一月、梶ヶ谷小学校にて)
光触媒について児童にわかりやすく解説

— 尊敬する科学者はいますか。

藤嶋 尊敬する科学者はファール（仏）とファラディ（英）です。特に、ファラディは学校にも行けなくて教育はほとんど受けていません。14歳でロンドン市内の製本屋の丁稚になって、製本した本を読んで勉強した人です。たまたま電信柱に公開講座のお知らせがあって、それを聞きに行ったら夢中になってノートにとりそれを製本しました。ある時、王立研究所所長のデービーの講義を一番前で熱心に聞き、それを製本してデービーに見せたら「私の実験助手に」と言われたそうです。それを契機に研究を積み重ね、いろんな発見をしました。最も有名なのは電気分解の法則「ファラディの法則」です。私は、自らが面白いと思ったことを夢中になってやる人がもっともすばらしいと思うのです。学歴などは関係ない。熱意が一番です。そういう点においてファラディを尊敬しています。

— 話は変わりますが、先日藤嶋さんの講演に伺った折に、江戸時代の儒学者佐藤一斎の言葉を紹介しておられました。その言葉に感銘を受けました。藤嶋さんにとって「学び」とは何でしょう。

藤嶋 「少にして学ばば、則ち壯にして為すこと有り。壯にして学ばば、則ち老いて衰えず。老いて学ばば、則ち死して朽ちず」ですね。今年の年賀状に使わせてもらった言葉です。

佐藤一斎の著書「言志四録」を読んでいた偶然出会った言葉です。私は今、一斎のことを勉強しています。一斎の言葉を紹介している人はどんな人かなと調べてみたら、ある会社の社長でした。いろんなことを大変熱心に勉強している方でした。私は企業のトップの方ともお話をする機会がありますが、その人たちも考えられないくらい勉強しています。お酒を飲みながら話している時に話題になることは、会社を良くしていこうということではなく、自分をいかに高めるかということですね。その方から「この間読んだ本は良かった」と聞くと私もすぐにその本を読んでみようと思心かわいてくるんです。勉強している人を見習おうとしていくとまた面白くなる。それを発端として関連のものがどんどん広がっていき、本当に面白くなってきます。時間が足りない感じです。強制されて学ぶのではなく、自分で学ぶことが最も大切です。自分で勉強したくてしょうがなくなるような雰囲気を作れるといいですね。

— 学びということに関連してもう一つ伺います。藤嶋さんは川崎市教育委員会の教育委員でもあります。「小・中学生の理科離れ」についてどうお考えですか。

藤嶋 ある調査で、理科が好きな子どもの割合が「7・5・3」と言われています。つまり小学校5年生では約7割、中学2年生では5割、高校2年生では3割ということです。私はこれを「8・6・4」に向上させたいと思っています。教科書は面白く書いてあると思いますが、中高生になって理科離れになるのは、面白さがわからないからだだと思います。たとえば花を見て「きれいだな」とか、「なぜこういう風に成長するのか」とかいうことをまず先生が理解して、さまざまな事象を面白いと感じて教えるということが大切だと思います。小学校の先生は特に理科の不得意な人が多いようです。理科が嫌だと思っている人が教えなければならぬのはつらいです。先生自身が面白いと思ってくれることが一番大事なことです。

★KSPテクノプラザ 光触媒ミュージアム★

小中学生から一般の方々を対象に、いま注目の環境技術「光触媒」を理解してもらうことを目的として、2004年7月21日に開設されました。同ミュージアムでは光触媒の原理や歴史をわかりやすく紹介しています。また、光触媒技術を適切に活用した自動車用品、内外装材など各種応用製品も展示しています。

- 場 所…かながわサイエンスパーク(KSP)西棟1階
- 交 通…JR南武線武蔵溝ノ口駅下車。KSP行きバス5分
- 開館時間…平日のみ10時～17時まで。入場無料
- 問い合わせ…☎(819)2035
神奈川科学技術アカデミー研究部研究事業課



◆お知らせ◆ 理科教育のヒントに、と藤嶋さんが手がけた本「くらべるシリーズ」(丸)

ありふれたことにも 何故と問うてみよう

——一般的に理科は難しいと敬遠されがちです。さまざまな原理をやさしく解説してくれると興味がわきますよね。

藤嶋 子どもたちに少しでも興味を抱いてもらえるように、大学の先生や企業の方をお願いして原稿を書いていただき『くらべるシリーズ』(2004年9月刊行)という本を作りました。この本は「何でもいいから比べてみよう」というものです。たとえば動物の足の数を比べる、金と鉄を比べる、テレビではブラウン管、液晶方式、プラズマ方式を比較するなどです。身の回りにあるものを比較して、わかりやすく解説することで少しでも興味を持ってもらえたらいいですね。そして「どうしてだろう、不思議だな」という探究心を刺激できたらと思っています。子どもたちよりもまず指導する先生に読んでもらいたいですね。

その本は最初、中高生が面白いなと感じて読んでくれる本にしようと思ったのですが、中高生向けにやさしく書くのが難しい。そこで先生に理解してもらって、面白さを生徒に教えるという一つのヒントになればと思っています。第1巻を作ったばかりですが、これからさまざまなテーマで本を作っていく予定です。少なくとも10巻ぐらいは作りたいです。そこから小学生用の本も作っていききたいですね。

——身の回りにあるものを、科学の目でやさしく解説してもらえたら、子どもだけでなく大人も興味がわきますね。

藤嶋 例えばテレビ、ブラウン管を使っているテレビは厚い。それが薄型のテレビが出てきた。液晶テレビになり、プラズマ方式になってきた。これは何故かな?と考える。いつも使っている携帯電話、日本全国のどの地点からかけてきても、その携帯電話だけが鳴る、これはどうなっているんだろう、どういう仕組みで発信しているんだろうと不思議に思う。そういうたくさんの不思議を本にして「その仕組みはこうなっています」と、その原理をなるべくわかりやすく解説しています。

『くらべるシリーズ』の本を作っていく中で、この間も知り合いのお医者さんに自分が疑問に思っていることを聞いたんです。「人間は、砂糖水は飲めるのに塩水は何故飲めないのか」と。哺乳類は海から来ているから海水以上の濃度のものは飲めないということは知っています。「では同じ哺乳類のクジラは何故海水を飲めるのか」と質問したらその方はわからないと言いましたが、いろいろな人に聞いてくださって「クジラは海水を飲んでいない。食べた魚の水分を摂っている」と教えてくれました。それを聞いて私は「では魚はどうか。海水を飲んでいるのか。魚を刺身で食べてもしょっぱく

ないでしょう?」と次の疑問がわいてきました。このように発展して考えていくと面白いしどんどん知りたくなってくるんですよ。

——子どもたちが自由に実験できるというような場を作るとい構想はありますか?

藤嶋 神奈川科学技術アカデミーでは7月に光触媒ミュージアムをKSPの一角にオープンさせましたが、その横のところに『くらべるシリーズ』の本を置いて、自由に見て欲しいと思っています。最終的には理科の実験室のような場を作りたいという夢はあります。それがいつになるかはわかりませんが、それには資金が必要です。神奈川科学技術アカデミーに寄付していただくと嬉しいですね。そうしたら、私は子どもたちの理科教育のために使いたいと思っています。



真剣なまなざしで実験の様子をつめる児童

——次世代を担う子どもたちへメッセージをお願いします。

藤嶋 何か一つ関心を持って、感動できるものを深めたり広めたりして欲しいですね。何でもいいんです。ありふれたことに対しても「何故だろう?」と考えて見てください。例えば、光を比べてみる。太陽光・電球・蛍光灯・蛍の光などの光を比べてみる。何故光は出るのか、原理は何かと考える。そのもとをたどったり、他のものと比較してみたりすると面白さが膨らんでくるでしょう。

藤嶋 昭さん (ふじしま・あきら)

1942年生まれ。財団法人神奈川科学技術アカデミー理事長。東京大学名誉教授。川崎市教育委員会教育委員。66年3月、横浜国立大学工学部卒業。71年3月、東京大学大学院博士課程修了(工学博士)。同4月神奈川大学工学部応用化学科で専任講師。78年4月、東京大学助教授。86年、同大学の教授。2003年4月、財団法人神奈川科学技術アカデミー理事長に就任。同年11月紫綬褒章。04年日本国際賞(本多健一博士と共同受賞)。内閣総理大臣賞。川崎市市民栄誉賞。著書に『光触媒のしくみ』(日本実業出版)、『光触媒のすべて』(工業調査会)など多数。座右の銘は「物華天宝」(科学の成果は天が準備してくれていて、それを探し人類に役立てるのが科学者の役割との意)。中原区在住。

情報コーナー イベントパーク 講座・コンサート他

●10周年記念「お散歩コンサート」

9月5日(日)13時開演、教育文化会館大ホール。無料。第1部では音楽家の指導で参加者全員が歌う。第2部は特別出演団体の発表。「市内オカリナサークル」の合同演奏、「すずかけハーモニー」、和太鼓「鼓空」、ロックソーラン「Let'sハッピーソーラン」。☎(233)6361の同実行委員会。



●川崎市民プラザビッグバンドナイトコンサート

9月25日(土)18時半。内容は生のバンド演奏と軽食。出演は東京キューバンボーイズJr。定員200人。前売り券2500円(軽食付)。同プラザフロントで発売。☎(857)8813。

●かわさきヤングミュージカル「ジャングル・ブック」

公募による小学生から大学生が出演するミュージカル。▽9月11日(土)12日(日)18時半、高津区のすくらむ21。協力券は大人1000円、高校生以下500円。市文化財団(タワーリパークビル3階)他で販売中。☎(200)2280の市民文化室。

●北部身体障害者福祉会館講習会

①拡大写本入門②手話入門

①9月24日～10月29日毎金曜13時半、全6回。②9月28日～11月16日毎火曜13時半、全7回。無料。☎9月11日(土)までに往復はがきに住所、氏名、年齢、☎、講習会名を記し〒213-6631高津区溝口1-18-16の同館。☎(811)6631。

●視力の弱い子ども達のための講習会

①拡大写本入門②朗読入門

①10月7日～11月11日毎木曜10時、全6回。②10月9日～30日毎土曜10時、全4回。中部身体障害者福祉会館。定員20人、抽選。無料。☎9月25日(土)までに往復はがきに住所、氏名、年齢、☎、講習会名を記し〒211-0068中原区小杉御殿町2-114-1の同館。☎(733)9675。

●日本エスペラント運動100周年記念「エスペラント入門講座」

9月29日～11月24日の毎水曜19時半、全8回。場所は川崎市国際交流センター。受講料3000円(学生半額)。先着20人。☎(533)1906の北川さん。

●市立看護短期大学公開講座「健やかに生きるために」

10月2日(土)13時半。無料。テーマは①「地域における中高年の子育て支援」②「更年期は好年期」③「ウエイトコントロール」。定員各30人程度。講師は看護短大教員。☎9月6日(月)から電話で。☎(587)3502の同短期大学教務課。

●大妻女子大学公開講座～魅力あるホームページを作る

9月25日～10月23日までの毎土曜10時、全5回。受講料3000円。☎9月17日(金)までに往復はがきに住所、氏名、性別、年齢、☎、職業を記し〒206-8540多摩市唐木田2-7-1同大学公開講座係へ。☎042(372)9988。

●清泉ラファエラ・アカデミア秋期講座

9月29日(水)開講の▽英会話▽スペイン語▽フラメンコ▽マテニスなど26講座の受講生を募集中。場所は同大学宮前平キャンパス。受講料は1期10回23000円～27000円。☎03(3447)5551の同大生涯学習センター。

●玉川大学公開講座

9月開講の▽初めての手話▽スケッチの旅 軽井沢▽かなに親しみ入門講座など33講座の受講生を募集。詳細は☎042(739)8895の同大学継続学習センター。

●日本女子大学公開講座

9月開講の「アイルランド音楽とお話」「色彩学を学ぼう」など34講座の受講生を募集。場所は同大学西生田生涯学習センター。パンフレット無料送付。詳細は☎(945)3323まで。

●中村正義生誕80年・秋展

11月28日(日)まで、中村正義の美術館。1961年から77年に亡くなるまでの作品を中心に展示。写真は74年「うしろに立っている私」。一般500円、高・大学生300円、小・中学生200円。開館日は金曜～日曜と祝日。11時開館。☎(933)4936。



●ミニ画廊スナック「琴」①写真②水彩画

①9月11日(土)まで倉石彰の作品(花・風景)②9月11日(土)～25日(土)まで、峰水彩画教室の作品(静物)。作品の展示は無料。場所は幸区鹿島田。☎(544)0507。

●シンクロナイズ・プロデュース公演「約束」

10月14日(木)15日(金)19時半▽16日(土)15時と19時半▽17日(日)15時。会場は中野ザ・ポケット。中央線中野駅下車。前売り3000円。☎☎・Fax(814)0503の同プロデュース。

●プラザ橋市民自主企画事業「ひとみ座の人形劇」

9月12日(日)11時。演目は「ブタとおオカミ」他。無料(要整理券)。入場整理券はプラザ橋で配布中。対象は3歳以上。☎(788)1531。

●川崎授産学園福祉講演会～映画上映

9月24日(金)10時と14時の2回、ドキュメンタリー映画「虹をつかむステージ」を上映。場所は川崎授産学園。無料。先着各50人。新百合ヶ丘駅南口より送迎バス運行。利用の場合は事前に申し込む。☎9月1日(水)より電話で。☎(954)5011。

●東芝科学館実験教室①GEMAS探検隊②ガリレオ工房

①は9月18日(土)、10時と13時半。「土の中に住む生き物のミステリー」。各回30人。②は9月25日(土)10時と13時半。「手でさわってあかりをつけよう」。各回50人。①②とも教材費500円。要予約。☎(549)2200の同館。

●「体操フェスティバルかわさき2004」の参加団体募集

11月13日(土)9時からとどろきアリーナで開催する同フェスティバルの参加団体を募集。対象は競技を目的とせず、健康増進や楽しみで体操をしている市内の団体。申し込みは9月30日(木)まで。詳細は☎070(5597)6721の石毛さん。

●混声合唱団「樹林」団員募集

2005年6月12日(日)に行う20周年記念演奏会に出演しませんか。練習は毎土曜18時半、宮前市民館他。入会金1000円、月会費4000円、学生2000円。☎(977)8629の大熊さん。